

1 教科の到達目標 (学習のねらい、身に付けたい力)

- 新しく美術の活動に取り組み美術の愛好する心情を培い、心豊かな生活を創造していく意欲と態度を育てる。
- 対象を見つめ感じ取る力や想像力を高め、豊かに発想し構想する能力や形や色彩などによる表現の技能を身に付け、意図に応じて創意工夫し美しく表現する能力を育てる。
- 自然の造形や美術作品などについての基礎的な理解や見方を広げ、美術文化に対する関心を高め、良さや美しさなどを味わう鑑賞の能力を育てる。

2 年間指導計画と単元 (題材)

学期	月	単元・題材名	学習内容	達成目標 (ねらい)
1 学 期	4	鉛筆デッサン (絵画)	・明暗の調子を鉛筆で描き分ける。 (対象物の立体感を表現する)	・鉛筆による明暗の幅を広げ立体的な表現で描くことができる。
	5	色彩の整理 (デザイン、絵画)	・無彩色と有彩色、色の三要素と三原色、色の調子や対比、感情など色の持つ性質や働きを学ぶ。	・色彩の物ささまざまな特質や色の混色を学び、作品の表現や生活に生かしていく力を育む。
	6			
	7	世界の文化遺産 (鑑賞)	・文化遺産の良さや美しさ、当時の人々の願いや意図と工夫、美術文化について考え鑑賞する。	・世界の文化遺産を通して、その美しさや良さを感じ取る鑑賞能力を育て、美術文化に対する関心を高める。
8	夏休みの課題 (絵画)	・「健やかカレンダー」を制作し、出品する。	・今まで学んだことを生かすことができる。 ・テーマに沿って創意ある作品を描く。	
2 学 期	9	名前のレタリング (デザイン)	・美しく、読みやすい文字のデザインを身に付ける。	・レタリングの基礎を学び、豊かに構成する能力や基礎的技法を身に付けることができる。
	10	鉛筆デッサン (絵画)	・色面の配色を工夫し、文字を引き立たせる構成を考える。 ・鉛筆で自分の手を描き、表現する力を高める。	・多様な表現方法でデッサン力を高め、工夫し美しく描く能力を育てる。
	11			
12	日本の文化遺産 (鑑賞)	・日本の文化遺産について学び、鑑賞する。	・日本文化に関心を持ち、意欲的に鑑賞に取り組むことができる。	
3 学 期	1	絵文字レタリング (絵画)	・伝えたい内容を多くの人に伝えるために、形や色彩などの効果を生かして作品を制作する。	・主体的に美術の活動に取り組み、心豊かな生活を創造していく意欲と態度を高める。
	2	日本と西洋の美術史 (紀元前～14世紀)	・日本と西洋の美術史を比較しながら学び、当時の人々の意図や造形的な良さに関心をもって鑑賞する。	・日本と西洋の美術文化に触れて、基礎的な知識を知り、意欲的に鑑賞に取り組む。
	3			

3 評価方法

観点	評価規準	評価方法
知識・技能	○制作用具の基本的な扱い方を理解し、正しく使って自分の思いどおりの作品に仕上げることができる。 ○テーマの意味や素材の特徴を理解し、自分の作品に生かし仕上げることができる。	・アイディアスケッチ ・完成作品 ・ワークシート ・定期テスト

	○想像力を働かせて、作品に表された作者の心情や意図、そして表現の工夫を感じ取り、多様な表現のよさや美しさなど味わい理解し鑑賞に親しむことができる。	
思考・判断・表現	○ものをよく見る力、気付き発見することができる。 ○豊かな感情や考え、空想力や想像力を広げイメージすることができる。 ○新しいもの、斬新なもの、ユニークな物もの考え出すことができる。 ○作品を通してコミュニケーションや意見の交換をし、お互いの良さや個性などを理解し合うことができる。	・ アイディアスケッチ ・ 完成作品 ・ ワークシート ・ 定期テスト
主体的に学習に取り組む態度	○より良いものを作り出そうとする態度 ○課題の理解から完成した作品まで、良い表現のため工夫や方法を導き出そうとする姿勢 ○自他の作品に愛着を持ち大切にしようとする気持ち ○授業中に行うことに対する知識と理解	・ 授業態度 ・ アイディアスケッチ ・ 作品完成 ・ ワークシート、鑑賞プリント ・ 提出物、忘れ物、後片付け

4 授業の取り組みについてのアドバイス

- 授業の受け方と心構え
 - ・ 「授業は学びの場」であることを忘れずに、集中して自分の課題、作業に取り組みましょう。また、他の人の集中の妨げにならないように注意しましょう。
- 授業に準備するもの
 - ・ 教科書、資料集、筆記用具（美術では鉛筆、消しゴムを必ず用意してください）以上3点が基本的な持ち物です。その他、課題によって用意するものがありますが、事前に授業で連絡します。
 - ・ 限られた時間を大切に使うために忘れ物をしないようにしてください。

5 家庭学習の進め方についてのアドバイス

- ・ 美術の時間は、週に1～2時間しかありません。課題に対してのアイディアや構想は美術の時間だけでは不足しがちです。授業中で考えたことは家庭学習でまとめておき、次の時間にスムーズに入れるようにしておきましょう。
- ・ 普段の生活の中から課題を常に意識して「面白いもの、楽しいもの、きれいなもの」など参考になりそうなものを記憶に留めておきましょう。できれば写真を撮っておいたり、スケッチしたりして、自分なりの参考資料を増やしておきましょう。

6 定期テスト前の取り組みについてのアドバイス

- ・ 美術のテストは課題、目的、内容、実践方法などの授業中の確認事項が主になります。教科書、資料集、プリント、ワークシート、板書などを復習しておきましょう。

7 苦手な人の取り組みについてのアドバイス

美術は上手に描けないから苦手だと思える人がいると思いますが、一番大切なことは絵が上手に完成するという事ではないのです。

ひとつの作品が出来上がるまで、いろいろと考え、工夫して、それが少しずつ出来上がっていく、そのプロセスが一番大切だということです。最初から上手に描こうとせずに毎回の授業を一生懸命取り組んで少しずつ出来なかったことが出来て、作品が完成していくことや分からなかったことが理解できていく、その積み重ねが豊かな感性や発想、表現力を深めて伸ばしていく結果につながります。根気強く一步一步作品完成までのプロセスを楽しみながら学んでいってください。